

平成29年度事業報告

社会福祉法人 嬉 泉

1. 事業概況

(1) 法人全体

平成29年度は、法人創立50周年を記念する事業として、9月14日にホテルオークラ東京にて記念式典を挙行了したほか、研究紀要の発行を行った。記念式典には、衆議院議員の高木美智代氏（現厚生労働副大臣）はじめ多くの関係各位にご出席いただき、50年という節目を盛大に祝うことが出来た。また研究紀要は、これも関係各位からの多くのご寄稿と共に、嬉泉の精神的支柱ともいえるべき受容的交流の考え方の現時点でのまとめや、保育・療育・相談という形で事業所毎の事業報告ではなく分野毎の実践報告を上梓することができ、これも50周年の集大成たるに相応しいものになったと自負するところである。

本年度の事業数は全26事業、職員数は、常勤320人、非常勤134人、総勢454人となった（平成30年3月31日現在）。そのため前年度に引き続き運営体制の合理化に向けた管理システムの拡充、職員の資質の向上を目指して研修体制の充実を図ってきた。中でも新たな人事制度の中核とすべく、キャリアパス・システムの再構築を図った。具体的には、経営管理室を事務局として、各拠点・事業所から選出されたメンバーによる「キャリアパス検討委員会」を組織し、全職員を巻き込んだ職務調査を嚆矢とするキャリアパスの制度設計を通年で実施し、一応の完成を見た。また前年度に引き続き、各事業所の援助実践を「受容的交流」の立場から検証し、その有効性に立脚した必要性を対外的に発信していくための次なる一歩として、年度末の職員全体研修の場で、支援現場における援助者自身の気づきに着目した実践報告4例を、法人全体で共有する機会を持つことが出来た。

新規事業としては、認可保育所「鎌田のびやか園」と、昨年度から半年繰り延べされた「送迎ステーション事業」を開設した。送迎ステーション事業は、世田谷区の保育所待機児解消施策の目玉として企図されたもので、交通の要衝である鉄道駅至近にハブステーションを設け、そこで引き継いだ児童を所属保育園まで送迎するという事業であり、決して交通の便が良いとは言えない「鎌田のびやか園」と「宇奈根なごやか園」にとってメリットがあった。

(2) 各事業拠点

1) 「子どもの生活研究所」の療育部門は、めばえ学園、おおらか学園、東京都発達障害者支援センター、さらに保育部門の事業所の実質的な運営を有機的に連携させた「クローバーシステム」を基盤として、子どもの生活研究所こぐま学園、特定相談支援事業所との関係も含めて法人内の他の事業との協力体制を図りながら、人員配置や事業運営を柔軟に行った。社会福祉法人嬉泉の基幹となる療育・保育の実践学習の場として、受容的交流理論の継承・発展に取り組み、職員の

質的向上に務めると共に法人の職員研修の場としての位置づけを更に強化し、且つ積極的に人事交流を展開した。また、社会福祉法人の責務として、世田谷区の世田谷区社会福祉協議会が設置する「社会福祉法人地域公益活動協議会」に参画し、地域における公益的な取り組みを実施していくが、法人内において、世田谷区内で中心的に事業展開をし、さらに法人本部のある子どもの生活研究所が中心的な役割を担った。相談支援事業所は、めばえ学園、おおらか学園、赤塚福祉園の利用者の利用計画を作成し、サービス利用を援助するとともに他事業所利用の区民のサービス利用の援助等を行った。こぐま学園は、法人独自の事業としての特質を生かし、利用者との信頼関係に根ざした一貫性のある支援の継続に努めた。今後も引き続き運営体制の整備を検討し実施していく。めばえ学園は、児童発達支援センターとして受け入れの幅を広げると同時に多様なニーズに対応し、乳幼児期の療育をさらに強化した。各関係機関との連携を積極的に図るとともに、幼児期の療育意義の啓発、普及に努めた。おおらか学園は、地域福祉全体の中で施設に求められる機能が多様化してきている現状があることから、施設自体の運営課題と地域福祉の中で果たすべき役割等を把握、整理し、利用者主体の支援方針を守り、高める方向で運営していた。東京都発達障害者支援センターは、相談支援と区市町村の発達障害者支援体制整備に向けてのバックアップの二つの柱で運営した。東京都より区市町村の家族支援体制の整備を目的とした東京都ペアレントメンター養成・派遣事業を受託し企画・運営を行った。

2) 「子どもの生活研究所」保育部門は、平成29年4月1日、鎌田のびやか園が開設。鎌田のびやか園の開設に合わせ、宇奈根なごやか園分園成城を鎌田のびやか園分園として、分園の付け替えを行った。さらに、送迎保育ステーション事業を開始。これにより、法人保育事業所は、子どもの生活研究所保育部門として拠点化された。すこやか園・宇奈根なごやか園・鎌田のびやか園は、毎月拠点場長・園長・副園長による法人保育部門会議を開催することで、情報交換・共有を行うと共に、連携体制を構築し、管理運営面での強化を図ることが出来た。保育内容に関しては、「子どもが主体性を持って、自発的・意欲的に友達や保育者と関わることを進めると共に、相互の信頼関係を土台として、様々な体験を積み重ね学び合う」という受容的交流理論に基づいた保育を行った。特に子どもの主体性を尊重し、乳児期の子どもには保育者や保護者との愛着関係を基盤とし、一人一人の発達過程や心身の状態に応じた適切な援助及び環境を整えた。3歳児以上の幼児には、法人内保育事業所の子どもとの交流の機会を持ち、仲間関係を広げ、社会性の発達を促すと共に、5領域の教育的取り組みを設定し、それに対応する試行を行った。保護者支援においては、子どもの保育との密接な関連の中で、送迎時の対応・相談や助言・連絡や通信、会合や行事など様々な機会を活用して行った。また、配慮や支援を必要とする家庭においては、法人・各関係機関との連絡・連携を密に行い、その家庭にとって有益となるよう支援に努めた。地域に開かれた保育所として、地域の親子への支援を目指し、すこやか園では「すこやか広場」のバックアップを行った。また、すこやか園分園キリンに隣接する笹原小学校との交流や、世田谷区教育委員会による就学前施設と小学校との連携事業であるスタートアップカリキュラム策定委員会に参画し、小学校との連携の強化を図った。宇奈根なごやか園・鎌田のびやか園では、近くの老人施設との交流の場を行うと共に、学校との関係を持つ等の世代間交流を行った。保育の質を確保するために、すこやか園分園キリンにおける定員変更を行った。

3) 「嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦」は、袖ヶ浦統括施設長の下、各事業のきめ細かな管理運営体制を実施するために配置した場長補佐並びに各施設長の働きにより、年度末の離職者は減少した。しかし部署によっては比率として離職者の多いところもあり、さらに職員の定着課題に取り組んでいく必要性が認められた。「嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦 10 カ年戦略」の年次計画として、本年度の実施状況は、引き続きひかりの本体の増改築に向けての検討を行い、並行して資金計画を策定して工事の実施に向けた準備を行った。また、10 カ年戦略そのものの見直しを行い、年度の後半に改訂版 (Ver. 1.5) を策定した。津久井やまゆり園の痛ましい事件により、施設の防犯設備の整備に補助金が交付されたので、それを受けて「嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦」施設防犯緊急対策整備事業として、のびろ学園、ひかりの学園、グループホーム春のひかりにそれぞれ、防犯カメラ及び防犯灯等を設置した。袖ヶ浦ののびろ学園は、加齢児の移行が完了し、国が当初示していたみなし期間中(平成30年3月まで)に加齢児全員の移行を終えることができた。東京都と協議していた10人の定員削減を5月より行い、定員40名で運営を行った。袖ヶ浦ひかりの学園は、利用者の高齢化に伴う施設整備が大きな課題であり、昨年度より改築のための検討委員会を立ち上げ、検討を重ねた結果、上記のように30年度に着工へと進める見通しとなった。また地域からの利用ニーズが引き続きあり、増築の際に地域支援棟も新たに建設することとなった。地域生活支援センターたのしみは、放課後デイサービス事業ウサギを本年度より定員を増員し、年齢層も中高生まで広げて、1日あたり20名の利用者を受け入れた。地域の社会資源や、拠点の施設等と連携を図りながら、地域の困難ケースの対応にも継続して取り組んだ。袖ヶ浦市福祉作業所うぐいす園は、事業開始以来3年が経過し、利用者並びに保護者及び行政から一定の評価は得られてきた。今後は、就労継続支援B型の利用率を上げる方策を早急に、かつ具体的に検討していく必要がある。

4) 「板橋区立赤塚福祉園」は、デイセンターきらら(生活介護事業)、ワークセンターはばたき(就労継続支援B型事業)、赤塚ホーム(緊急保護事業)からなっている。平成29年9月に実施したメール送信訓練において誤送信による個人情報の流出事故が発生した。今回の事故発生時の対応が不適切であり、この事故への反省を踏まえて、メール送信手順の見直し、個人情報保護に関する職員研修の実施等、再発防止に努めた。生活介護事業においては、区立福祉園平準化基準の範囲内ではあるが、「在園時間の延長」を行い、従来からの「延長サービス」とともに家庭支援の一助となった。就労継続支援B型事業においては、受注企業との交渉による作業単価の見直しによって、前年度より増収となり、利用者工賃のさらなる増額につながった。緊急保護事業については、近年、介護者の高齢化に伴う急な入院、家庭内の問題等により、長期利用を要する利用が増加しており、板橋区との協議により、休養事由による利用の見直しを行った。地域との関係においては、福祉園祭りの開催にあたっては、篠ヶ谷戸町会に加え、地域のNPO法人等の協力を得ることができた。また、板橋区社会福祉法人施設等連絡会の活動については、地域公益活動としてのフードドライブへの協力など、積極的に参加した。

5) 清瀬市子どもの発達支援・交流センターは、「地域と連携・交流しながら地域にくらす親子

をささえる」を基本理念として、法人が長年にわたり培ってきた実績に基づく理念「受容的交流理論」や、現スーパービジョン体制の下に心身の発達に遅れやかたよりのある子ども、さらに社会生活上何らかの問題を持つ子どもの相談・訓練指導を通して成長・発達を援助し、地域での育ちを支えることを目的とし運営を行った。また、対象となる本人や家族だけではなく、その方を取り巻く関係者への支援をする等、地域の支援力の向上に努めると共に、相談・療育・支援の場の提供だけではなく、地域療育の拠点となることを目指し、地域活動にも積極的に参加をしながら連携に努めた。

6) 「大田区立こども発達センターわかばの家」は、大田区からの委託事業である。心身の発達に遅れや偏り、またその疑いのある就学前の乳幼児に対し、早期に必要な支援を行い、基本的な自立の育成と集団生活への適応を高めることを目的とし、「乳幼児の支援」と併せて「保護者との連携・支援」「関係機関との連携」「地域と触れ合う施設づくり」を行った。業務委託2期目となり、引き続き、「相談支援事業」「地域支援事業」「早期支援事業」と「指定相談支援事業所」の運営を行った。年々相談者数、利用希望者数が増加し続けている状況において、必要に応じた支援を少しでも効率的に提供できるよう、可能な限りの工夫と柔軟な対応を行った。特に新しくは、利用までの待機が長くなったり、個別的な支援の提供ができにくい状況を補完する手立てとして「グループでの学習会や相談会」を実施したり、地域支援の強化として、地域の支援力向上のためにより有効性のある研修会の企画・実施等に取り組んだ。引き続き、利用者が増幅していくことが見込まれ、短期的な対策にとどまらず、中・長期的な計画を視野に入れて、今後も区との協議を重ねていく必要がある。

相談支援事業は、わかばの家の相談窓口として、就学前の乳幼児の「発達相談」「子育て相談」を実施した。早期支援事業は、従来通り「単独通所事業」「親子通所事業」「訓練事業」(本館・分室・分館)「子育てサロン事業」「アフターケア事業」を実施した。「地域支援事業」は、幼稚園・保育園等への支援、「こども発達支援講演会」の開催、「支援者向け研修会」の開催(4回)、「児童館ミニ学習会・相談会」を実施した。相談支援事業所は、18歳未満児を対象に「障害児相談支援事業」「特定相談支援事業」を実施した。その他、子育て支援課の主催する「ファミリーサポート提供会員の養成講座」(4回)、大田区社会福祉協議会の主催する「保育補助員養成講座」(1回)に協力し、講師派遣を行った。

2. 法人本部

(1) 法人運営

1) 理事会・評議員会関係

① 理事会並びに評議員会の開催状況

ア 理事会

回	開催日	出席数	議事内容
1	29. 4. 19	4/6	諸規程の整備について
2	29. 6. 2	5/6	平成28年度事業報告について、平成28年度決算報告について、定款の変更について、諸規程の整備について、平成29年度定時評議員会について
3	29. 6. 19	6/6	理事長の選定について、常務理事の選定について
4	29. 8. 21	決議省略	子どもの生活研究所空調設備改修工事の実施について
5	29. 10. 16	6/6	常務理事（業務執行理事）の業務分担について、平成29年度資金収支補正予算について、諸規程の整備について、「嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦」施設防犯緊急対策整備事業実施計画について、「嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦」施設防犯緊急対策整備事業に係る入札参加条件について、「嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦」施設防犯緊急対策整備事業に係る工事予定価額及び最低制限価額の設定について、グループホーム春のひかり防犯カメラ・防犯灯設置等防犯対策工事実施計画について、グループホーム春のひかり防犯カメラ・防犯灯設置等防犯対策工事実施計画に係る指名競争入札参加条件及び指名業者選定基準について、グループホーム春のひかり防犯カメラ・防犯灯設置等防犯対策工事実施計画に係る工事予定価額について
6	29. 10. 30	決議省略	グループホーム春のひかり防犯カメラ・防犯灯設置等防犯対策工事実施計画に係る指名競争入札参加業者の選定について
7	29. 11. 27	決議省略	「嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦」施設防犯緊急対策整備事業に係る施工業者の選定について
8	29. 12. 20	6/6	平成29年度資金収支補正予算について、監事監査規程の制定について、諸規程の整備について、運営資金の借入について
9	30. 2. 10	決議省略	諸規程の整備について
10	30. 3. 23	5/6	平成29年度資金収支補正予算について、平成30年度事業計画について、平成30年度資金収支予算について、諸規程の整備について、事業の一部廃止について、施設長人事について、袖ヶ浦ひかりの学園施設整備計画について

イ 評議員会

回	開催日	出席数	議 事 内 容
定時	29. 6. 19	7/7	平成28年度事業報告について、平成28年度決算報告について、定款の変更について、理事の選任について、監事の選任について、役員及び評議員の報酬について

② 監事による監査

ア 監査実施日

- ・会計監査…平成29年5月18日(木)
- ・事業監査…平成29年5月19日(金)

イ 実施場所

- ・会計監査 嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦
- ・事業監査 法人本部

ウ 監査内容

平成28年度における理事の業務執行状況及び法人の財産状況

エ 監査結果

事業実施報告、決算書、決算附属明細表ならびに財産目録は適正

③評議員選任・解任委員会

ア 開催なし

イ 委員

選出区分	氏 名	職 業 等
監 事	大森 行雄	大森行雄税理士事務所 税理士
事務局員	亀谷 一雄	本部事務局長
外部委員	矢島 卓郎	目白大学人間学部人間福祉学科 教授・学部長
外部委員	古屋 龍太	日本社会事業大学専門職大学院 福祉マネジメント研究科 研究科長

2) 法人の事務処理体制

① 経理関係

	会計責任者	出納職員	契約担当者	現金保管責任者
職・氏名	常務理事 石井 啓	事務局長 亀谷一雄	理事長 須藤祐司	事務局長 亀谷一雄
発令月日	H26. 6. 20	H9. 4. 1		

② 公印等管理

	代表者印管理	法人印管理
職・氏名	常務理事 石井 啓	常務理事 山崎順子

3) 資金関係

① 寄付金

寄付者	目的	金額
一般寄付者他	運営費(本部)	266,275,720
一般寄付者他	運営費(施設)	1,030,611
合計		267,306,331

② 地方公共団体補助金

東京都	サービス推進費他	249,729,366
世田谷区	運営費他	353,248,743
千葉県	サービス推進費割愛分他	31,703,360
千葉市	サービス推進費割愛分	1,792,000
袖ヶ浦市	相談支援事業委託料他	3,693,460
板橋区	委託料	419,399,000
清瀬市	〃	82,612,300
大田区	〃	321,331,683
狛江市	運営費	2,910,179
足立区	一時保護委託料	233,274
合計		1,466,653,365

4) 実施事業一覧

事業拠点	事業所	施設種別	施設長氏名	定員	職員数
子どもの生活研究所 【療育】	めばえ学園	障害児通所支援（児童発達支援センター）*2	樋口美津子	30	10
	おおらか学園	障害福祉サービス事業（生活介護）*2	沼倉 実	23	16
	子どもの生活研究所（相談部・こぐま学園）	児童の福祉増進につき相談に応じる事業		—	1
	東京都発達障害者支援センター（トスカ）	公益事業	山崎 順子	—	8
子どもの生活研究所 【保育】	すこやか園（ゾウ、クワ、キノ）	認可保育所*2	稲垣 修	96	42
	宇奈根なごやか園（カモシカ）	認可保育所*2	佐瀬美穂	100	33
	鎌田のびやか園（ライオン、シロクマ）	認可保育所*2	坂田 朗	97	28
	すこやか広場	地域子育て支援拠点事業	稲垣 修	—	—
嬉泉福祉交流センター 袖ヶ浦	袖ヶ浦のびろ学園	福祉型障害児入所施設 *1	柳 淳一	50	34
	短期入所 袖ヶ浦のびろ学園	障害福祉サービス事業（短期入所）	柳 淳一		
	袖ヶ浦ひかりの学	障害者支援施設 *1	石井 啓	53	51

	園				
	短期入所 袖ヶ浦 ひかりの学園	障害福祉サー ビス事業（短 期入所）	石井 啓		
	地域生活支援セン ター たのしみ	相談支援事 業、障害児通 所支援*2	柳 淳一	—	1 0
	日中一時支援 たのしみ	日中一時支援 事業	柳 淳一		
	グループホーム 春のひかり	障害福祉サー ビス事業（共 同生活援助） *2	石井 啓	4	1
	袖ヶ浦市福祉作業 所うぐいす園	障害福祉サー ビス事業（生 活介護） *2	石井 啓	1 2	4
障害福祉サー ビス事業（就 労継続支援B 型） *2		3 0			
板橋区立赤塚福祉園	デイセンター きらら	障害福祉サー ビス事業（生 活介護） *2	小池 朗	6 0	3 2
	ワークセンター はばたき	障害福祉サー ビス事業（就 労継続支援B 型） *2	小池 朗	4 0	1 0
	赤塚ホーム	板橋区緊急保 護事業	小池 朗	8	1 0
清瀬市子どもの発達支援交流センター （とことこ）	公益事業	田中 慶子	—	9	
大田区立こども発達センターわかばの家	公益事業	大岩香代子	—	4 6	

注) 事業の種類 *1：第一種社会福祉事業

*2：第二種社会福祉事業

職員数：常勤職員

5) 施設整備

①子どもの生活研究所[療育・保育]

- ・子どもの生活研究所空調設備改修工事

総費用 45,748,800円

(ファイナンシャルリース・リース期間10年)

②嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦

- ・障害者（児）施設防犯緊急対策整備事業

袖ヶ浦のびろ学園

総費用 34,236,000円

(補助金22,178,000円 自己負担 12,058,000円)

袖ヶ浦ひかりの学園

総費用 34,776,000円

(補助金25,762,000円 自己負担 9,014,000円)

グループホーム春のひかり

総費用 2,973,240円

(補助金2,229,000円 自己負担744,240円)

6) 法人創立50周年記念事業

① 記念式典

日時：9月14日(木) 15時から

場所：ホテルオークラ東京

出席者：約180名

② 記念紀要

発行部数：2000部

(2) 経営管理室

1) 職員採用

① 平成30年度に向けた新規職員採用の概要

ア 新卒者については、経団連の就職協定である3月広報活動解禁、6月選考活動解禁、10月内定解禁があるものの、実質的には学生の就職活動は早まっており、マイナビ2018を稼働させ、早期新卒の囲い込みを実施した。

一方、従来からの福祉系学生(保育士養成校を含む)の就職活動は、秋以降が本流となっておりこの動向にも合わせた採用活動を実施した。

この結果、本年度は通年ベースで12回の採用説明会を設定し、応募者のあらゆる動向に対応できる体制とした。結果は次に示すとおりであった。

			応募	内定	辞退	採用	新卒	既卒
第1回	3月11日	土	中止					
第2回	3月25日	土	10	2	1	1	1	
第3回	3月25日	土	9	1		1	1	
第4回	4月8日	土	11					
第5回	4月24日	月	1					
第6回	4月28日	金	7	3	1	2	2	
第7回	5月27日	土	15	2		2	2	
第8回	6月24日	土	16	5	1	4	1	3
第9回	9月30日	土	17	5		5	4	1
第10回	10月14日	土	14	3		3	2	1
第11回	11月11日	土	10	4	1	3	1	2

第12回	12月9日	土	9	2	1	1	1	
個別			60	10		10	1	9
計			179	37	5	32	16	16

3、4月は一般企業の動向につられて動き出す学生も多少はみられるが、全体的には5月以降に集中した。

説明会を平日の夜間に設けてみたが、期待したほどの学生は集まらなかった。イ 既卒者については、ほぼ通年の採用活動を実施し、期中採用者、新規採用者のそれぞれを確保した。また、主に新規採用対応（新卒及び既卒）の説明会に期中採用の応募者も交えて招集し個別対応を実施した。

ウ 对学校関係に関しては、昨年同様採用活動強化校を選択し、日ごろからの関係の強化、求職情報のきめ細かな発信を行ってきた結果、大学のキャリアセンター、指導教授、在籍先輩情報など複数のネットワークからの直接採用が6件に増加した。

エ ハローワークとは、引き続き良好な関係が維持できており、ハローワーク側で嬉泉を応募者に推薦するケースも多い。渋谷ハローワークハートフルコーナー（福祉関係専門）に加え、木更津ハローワーク、池袋ハローワークにも、嬉泉の業務内容と理念に共感してくれている職員が継続して選抜推薦してくれている。

オ 応募者の求職活動の多様化傾向は続いており、東社協が運営する「福祉の仕事」サイト、千葉県社協が運営する「福祉の仕事」サイト、世田谷区が運営する「世田谷保育ワーク」サイト、心理職募集サイトからの採用実績につながった。求人ソース内訳は以下のとおりである。

求人ソース	採用数	詳細
学校紹介	6	目白大 白梅学園大 山梨県立大 東京医薬専 聖心女子専 淑徳短大
マイナビ2018	7	
その他の就職サイト	7	福祉のお仕事（東社協） 4 世田谷保育ワーク 2 心理職募集サイト 1
法人HP	5	
知人	3	
東社協フォーラム	1	
ハローワーク	3	
計	32	

カ 今年度の就職市場については、有効求人倍率が全国平均で1.6となっており首都圏エリアでは更に厳しい売り手市場と化している。この結果、直接支援員15名不足、間接支援員6名不足のまま新年度を迎えることとなった。引き続き通年ベースで良材

確保に努めていく。

この背景には、今年度採用した職員70名（新規39名、期中31名）の内18名（26% 新卒3名 既卒15名）が当年度に退職していることがあげられる。採用時のより慎重な見極めも求められるところである。

キ 内定者確保のための新たな施策

(1) 10月7日に、袖ヶ浦に内定者を集め、バーベキューを交え懇談会を実施した。懇談会開催をきっかけに3名が辞退を表明した。やむを得ず参加できなかった2名を含めこの時点での内定者11名からはその後辞退は発生しなかった。

(2) 内定者に対して、夏休み、通年を含め、アルバイトのオファーを行い、多くの内定者が参画した。アルバイト先への就業の執着も垣間見られ、活用の工夫は必要であるが内定者確保の有効な手段であることが確認できた。

② 常勤職員採用結果

		心理職	支援員	保育士	厨房	事務等	医務	計
男女別	男	0	3	2	0	0	0	5
	女	0	13	11	3	0	0	27
新既別	既卒	0	7	6	3	0	0	16
	新卒	0	9	7	0	0	0	16
学歴別	院卒	0	2	0	0	0	0	2
	大卒	0	11	11	0	0	0	22
	他	0	3	2	3	0	0	8
	計	0	16	13	3	0	0	32

③ 職員数の推移

平成26年4月1日から平成30年4月1日の間の職員数の推移は下表の通りである。

	常勤職員	非常勤職員	派遣社員	計
平成26年4月1日	335	141	2	478
平成27年4月1日	360	156	2	518
平成28年4月1日	367	160	1	528
平成29年4月1日	343	136	2	481
平成30年4月1日	352	137	5	494

※嘱託契約（医師等）を除く

2) 次世代育成プロジェクト

①活動概要

ア 本年度新たに育児休業を取得したものは19名であった。

育児休業からの復帰予定者12名の内、10名が復帰した。退職の内1名は本人の転職希望、他の1名は住居の問題での退職となった。

また、男性職員2名が育児休業を取得した・

- イ 育児休業からの復帰者については復帰前に面談を行い、円滑な復帰に繋がるよう法人としてサポートした。
- ウ 給与支給日の定時退社の徹底を全事業所で実施した。
労働時間管理、休暇管理についても事業所長が率先して働きやすい職場にすべく努めた。
- エ 産休、育休取得者へ出産祝い金制度を設けるべく、給与規程の改定を実施した。
- オ 採用活動での告知を強化
くるみん認定マークの求人票への掲載（募集要項、ハローワーク求人票）
採用説明会で、応募者への説明を実施した。
- カ 東京都「働きやすい職場モデル事業主」として法人が選定され、同時に石井啓常務理事が、東京都「働きやすい職場ガイドライン策定委員会」委員にも選定された。「働きやすい職場モデル事業主（保育療育部門）」として石井啓常務理事が実践発表を行った。
- キ 平成29年3月26日、第2期 基準適合一般事業主認定（第2期くるみんマーク認定）を受けた。



②育児休業取得実績

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
子研	1	1	5	11	5	5	8
セタック	1	1	3	3	3	0	—
袖ヶ浦	1	2	3	2	2	2	3
赤塚	0	1	2	1	1	1	2
清瀬	0	0	0	0	1	0	2
大田	—	1	0	3	0	6	4
計	3	6	13	21	12	14	19
備考				くるみん認定取得			2期くるみん認定取得

※育児休業開始日の属する年度

③女性活躍推進法への取り組み

- ア 平成28年4月1日施行の女性活躍推進法に対応し、平成28年3月31日付にて「一般事業主行動計画」を策定し東京労働局長に届け出し、厚生労働省「女性の活躍・両立支援総合サイト」及び嬉泉HPに「社会福祉法人嬉泉女性活躍行動計画および女性の活躍に関する法人情報」としてその内容を公表しているところであるが、平成28年度実績において優良事業主としての実績をクリアしたので認定申請を行い現在審査中である。

【参考】優良事業主適合基準（以下の全ての基準を上回った）

- (1) 直近3事業年度の男女別採用における競争倍率で女性が下回る
(女性の競争倍率は、x 0.8で比較)
- (2) 直近の事業年度の男女別平均継続勤務年数

(女性の継続勤務年数は、x 0.7で比較)

- (3) 直近の事業年度の時間外労働及び休日労働が月平均45時間を下回る
- (4) 直近の事業年度の女性管理職の割合が当該産業平均値(福祉・医療産業平均43.9%)を上回る
- (5) 直近の3事業年度の多様なキャリアコースでの採用実績
 - ・派遣労働者から通常の労働者への雇入れ実績
 - ・30歳以上の女性の通常の労働者としての中途採用実績

3) キャリアパス策定プロジェクト

①概要

- ・法人キャリアパス(CP)モデルを職員参加型で策定した。
- ・各拠点、各事業種別等を代表するプロジェクトメンバーが主体になり、各拠点、事業所ごとにCPモデル中の複数項目を検討策定。プロジェクトメンバー会議で検討後、経営管理室で集約、補足、修正して、CPモデル案を策定、場長会に上程し、承認された。
- ・策定したCPモデルは、平成29年度全体職員研修にて公示、説明した。
- ・平成30年度を試行期間とし、再度プロジェクトを立ち上げ、運用上の課題を検討、対策していく予定である。

②行程

会議等	月日	内容
経営管理室打ち合わせ	4/5	CPモデル策定方法(プロジェクト型)決定 CPモデルアウトライン決定
場長会	4/12	プロジェクト案説明 プロジェクトメンバー選出依頼 承認
プロジェクト会議1	5/31	プロジェクト概要説明 作業依頼・説明
事業所・職種ごと打ち合わせ	6月～	項目『業務内容』の洗い出し作業(原則、全職員参加)
プロジェクト会議2	9/6	項目『業務内容』洗い出し作業進捗報告・修正
経営管理室打ち合わせ	10/25	項目『業務内容』整理 プロジェクト作業項目再検討・決定
プロジェクト会議3	11/15	項目『業務内容』整理結果提示 項目『求められる能力』『求められる姿勢』作成依頼・説明
経営管理室打ち合わせ	12/13 1/17	項目『役割・責任』『研修』『基本給』『昇格要件』を加えたCPモデル検討・決定 説明Q&A集作成
プロジェクト会議4	1/24	CPモデル案・説明Q&A集案提示・説明 質問収集
経営管理室打ち合わせ	2/28	CPモデル案・説明Q&A集完成
場長会	3/6	CPモデル案・説明Q&A集上程 承認
全体職員研修	3/18	CPモデル案・説明Q&A公示・説明

(3) 研究啓発局

1) 法人主催の職員研修

①療育合宿研修

ア. 夏季療育合宿

日時：平成29年8月19日(土)～21日(月)

場所：嬉泉福祉交流センター[袖ヶ浦]

目的・内容：

- ・自閉症児・者と生活をともにしながら、『受容的交流』を体験的に学ぶ。特に日常業務において、一定程度経験を積んだ職員の支援能力の向上、グループ等の運営能力の向上に主眼を置く。
- ・日常とは違ったスーパービジョン体制の中で、個々の職員が自分を見直し、研修課題に取り組む。

参加利用者：10名

参加職員：19名（研修対象職員13名、研修係6名）

イ. 冬季療育合宿

日時：平成29年12月23日(土)～25日(月)

場所：嬉泉福祉交流センター[袖ヶ浦]

目的・内容：

※夏季療育合宿と同

参加利用者：9名

参加職員：18名（研修対象職員13名、研修係5名）

両療育合宿とも、研修目的が広がってしまい結果的にリーダーやメンバーの選定に課題が残った。来年度より研修の目的を次世代リーダー層の育成に絞り込み、さらに年度当初から計画的な人選を行い、人材育成を確実にすすめていくように実行していくことが臨まれる。

②新人研修・全体職員研修

ア. 新人研修

日時：平成30年3月17日(土)

場所：嬉泉福祉交流センター[袖ヶ浦]

目的・内容：

- *新人職員へのオリエンテーション・ガイダンスを行う。
- *新人職員の緊張を和らげ、職員同士の交流を図る。

参加職員：67名(平成29年度中途採用職員;25名、平成30年度新規採用職員；28名、研修係、スタッフ；14名)

新人研修については就業前の研修になるため、就業3か月経過くらいの段階で、情報交換や新人職員交流のための研修を企画し、新人職員の意欲の向上や問題点の洗い出しなどを行い、職場定着につなげることが効果的ではないかと考える。

イ. 全体研修

日時：平成30年3月18日(日)

場所:浦安ブライトンホテル東京ベイ

テーマ：『人間性重視の支援とは』

～内的世界の理解と支援者の成長の重要性～

参加職員：286名(全職員対象、平成30年度新規採用職員含む)

③職層別研修

※本年度は実施しなかった。

④事業所間職員交流研修

・各拠点における夏祭りや餅つき等の季節行事の際、それぞれ各事業所に職員の研修参加を呼びかけ、随時交流研修を実施した。

嬉泉職員の交流は、職員のマスが大きくなるにしたがって難しくなっていると感じられる。行事など、様々な機会を利用してさらに積極的に交流の機会を持ち、嬉泉のアイデンティの確認・強化していくことがのぞまれる。

2) 広報・啓発事業

①自閉症実践療育セミナー

平成 29 年度は、法人創立 50 周年記念式典を開催したため、自閉症実践療育セミナーは開催せず、来年度より再開の予定とし、平成 30 年度の実施に向けて企画を検討し準備にあたった。

②「嬉泉の新聞」の発行

「嬉泉の新聞」では、福祉関係有識者や法人理事等の関係者による巻頭言、法人内トピックスの紹介等、法人に関わる各種情報の公開等を行なっている。年 2 回の定期発行とし、作成した新聞は、法人関係者、協力者、関係諸機関・団体等に無料配布している。また、嬉泉をより理解いただくために、嬉泉バザーや嬉泉祭りバザーで広報コーナーに置いたり、職員採用説明会等で配布をしている。

●発行状況：第76号（10月発行）／ 第77号（3月発行）

●発行部数：第76号 2,000部 / 第77号 2,000部

*今年度も配布先を精査し、今まで行っていた全職員への配布を、部署ごとの回覧掲示及びホームページでの閲覧等へ切り替え、発行部数を減らした。

●内容：

<第 76 号>

- ・巻頭言「社会福祉はふれあいと支えあい」～地域の活動を通して～
社会福祉法人 嬉泉 評議員 小島 直子氏
- ・「研究啓発局・人材育成 全体研修企画係からの報告」
- ・「研究啓発局報告 アトリエ・アウトスの新しい試み」
- ・第 39 回嬉泉祭りバザー報告
- ・「平成 28 年度社会福祉法人嬉泉 事業報告／決算報告」
- ・寄付品のご報告 おおらか学園

<第 77 号>

- ・巻頭言「ペアレント・メンターによる家族支援」
鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学講座 井上 雅彦氏
- ・「平成 30 年度の基本方針」
社会福祉法人嬉泉 常務理事 石井啓

- ・「創立 50 周年記念式典を終えて」
- ・第 53 回嬉泉バザー ドキュメント
- ・委員会報告 災害対策委員よりの嬉泉の実践
- ・くるみんマーク取得の流れ 嬉泉らしくあるために

③ インターネット・ホームページ管理

「嬉泉新聞」とともに、本法人にかかわる各種情報の公開を目的として、よりアップ・トゥ・デートな情報を発信するために、ホームページリニューアルを行った。インターネットを利用した求人求職が主流になっているため、採用情報をわかりやすいようにした。

ホームページの主な掲載内容

- ・インフォメーション（嬉泉バザー開催のお知らせ他）
- ・嬉泉について
- ・嬉泉事業所案内
- ・法人公開情報（運営財務に関する公開情報他）
- ・採用情報
- ・アトリエアウトスについて

④ 法人パンフレット・事業所パンフレット

法人の総括的パンフレットは平成 29 年度に当初に改訂増刷した。各事業所がそれぞれに作成した事業拠点ごとの事業所パンフレットとともに、本部及び各事業所において活用している。

⑤ アトリエAUTOSの活動内容

■作品展開催

ア アンシエーヌ藍（社会福祉法人藍 就労B事業所レストラン 三軒茶屋）との
コラボレーション企画展 アトリエ・アウトス展～春夏秋冬～

- ・期間；春：4月17日～5月17日、夏：7月10日～8月10日
秋：10月10日～11月11日、冬：2月13日～3月9日
- ・場所；三軒茶屋 レストラン・アンシエーヌ藍
- ・企画；社会福祉法人藍

イ アトリエ・アウトス展～自閉症その内的世界の表出XII～ 主催

- ・期間；6月14日～20日
- ・場所；玉川高島屋S・C南館6階ホワイトモール
- ・企画；東神開発株式会社 ・後援；世田谷区

ウ アトリエ・アウトス展 主催

- ・期間；1月30日～2月4日
- ・場所；世田谷美術館区民ギャラリーA
- ・後援；世田谷区

エ 植草学園短期大学 学園祭 作品出展

- ・期間；11月11日～12日

・場所；植草学園短期大学

■その他

ア クリアファイルを制作。バザーで販売する。

イ 創立 50 周年記念品作成 ポストカード

ウ 2018 年カレンダー（ポストカード仕様）制作販売および配布
（1000 セット作製）

(4) 本部事務局

1) 事務職員研修

※本年度は実施しなかった。

2) 福利厚生

① 新人職員歓迎会

・目的・内容：辞令交付式と同日に開催。新任職員を歓迎し、先任職員との交流を行った。

・期日：平成29年4月3日（月）

・場所：子どもの生活研究所

② 年頭所感会

・目的・内容：年頭に当たり、理事長・常務理事より所感と今後の方針が述べられた。その後職員同士の懇親を目的とした着席式のパーティーになり、飲食を交えて歓談した。

・期日：平成30年1月13日（土）

・場所：浦安ブライトンホテル

・参加人数；251名

3) バザーの開催

① 第53回嬉泉バザー

ア 期日；平成29年10月29日（日）

イ 場所；子どもの生活研究所

ウ 会計報告（単位；円）

係	純益
献品	212,173
手芸	58,920
産直・委託	124,120
食堂	224,540
広報	54,000
後援会	60,751
総務	298,175
合計	1,032,679

② 第40回嬉泉祭りバザー

- ア 期日；平成30年3月4日（日）
 イ 場所；嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦
 ウ 会計報告（単位；円）

係	純益
献品	657,318
手芸	148,690
子どもコーナー	54,200
食堂	318,724
広報	129,005
総務	800,227
合計	2,108,164

4) 運営改善・人権擁護等

① 苦情解決

ア 苦情解決実績

平成29年度中の苦情申出件数 0件

イ 苦情解決第三者委員

事業所	氏名	性別	推薦区分	職業等
世田谷	高橋利一	男	関係団体	至誠学舎立川顧問
	小沼肇	男	関係団体	日本社会事業大学客員教授
	安藤真洋	男	関係団体	社会福祉法人武蔵野理事長
	金子恵美	女	関係団体	日本社会事業大学教授
袖ヶ浦	請井征力	男	関係団体	社会福祉法人佑啓会市原市福祉会館館長
	宮本秀樹	男	関係団体	常磐大学コミュニティ振興学部准教授
	小島直子	女	地域代表	袖ヶ浦市民生委員・児童委員
赤塚	関谷公二	男	地域代表	泉福寺住職（元篠ヶ谷戸町会長）
大田	瀧下史代	女	地域代表	入新井地区民生委員
	岡崎照幸	男	地域代表	馬込地区民生委員
	守安富美子	女	地域代表	田園調布地区民生委員
清瀬	池永和子	女	地域代表	清瀬市民生児童委員協議会会長

② 第三者評価事業の受審

下記施設・事業において、東京都認証機関による第三者評価事業を受審した。

- ア 福祉型障害児入所施設袖ヶ浦のびろ学園
 イ 障害者支援施設袖ヶ浦ひかりの学園
 ウ 障害福祉サービス事業（生活介護）板橋区立赤塚福祉園
 エ 障害福祉サービス事業（就労継続支援B型）板橋区立赤塚福祉園

③ 法令遵守自主点検の実施

内部統制質問書による自主点検を拠点単位で実施し、法令遵守責任者に提出した。

[役員・評議員名簿]

【役員】

理事長 須藤祐司 医療法人社団嬉泉会 理事長
常務理事 石井 啓 (福)嬉泉 袖ヶ浦ひかりの学園 園長
山崎順子 (福)嬉泉 東京都発達障害者支援センター センター長
理事 高橋利一 (福)至誠学舎立川 顧問
潮谷義子 元(学)日本社会事業大学 理事長
山根美江子 (福)嬉泉 保育・療育統括アドバイザー
監事 中島健一 (学)愛知学院大学 教授
大森行雄 大森行雄税理士事務所 税理士

*任期： 平成29年度定時評議員会より平成31年度定時評議員会まで

【評議員】

評議員 前川千寿子 (福)慶長会 理事長
安田正貴 元(財)世田谷区保健センター 理事長
金子尚弘 元(学)白梅学園 白梅学園大学子ども学部 教授
丸山寿晴 (医)嬉泉会 副理事長
吉岡則重 (福)東京福社会 専務理事
渡邊慶一郎 東京大学学生相談ネットワーク本部精神保健支援室室長
小島 直子 袖ヶ浦市民生委員・児童委員

*任期： 平成29年4月1日より平成33年定時評議員会終結時

年間行事等実施報告

平成29年度

項目 月	行		事		職員研修・職員会議等		広報・啓発事業		職員採用		その他	
	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容
4月					12	場長会（子研）			8	採用説明会	19	理事会
									24	採用説明会		
									28	採用説明会		
5月					24	場長会（大田）			27	採用説明会		監事監査(18,19)
6月					7	園長会（子研）			24	採用説明会	2	理事会
					14	場長会（子研）					19	評議員会・理事会
7月	15	赤塚夏祭り	22	子研夏祭り	12	場長会（子研）						
	20	袖ヶ浦夏祭り	23	わかば夏祭り								
			29	鎌田夕涼み会								
8月	5	宇奈根夕涼み会			16	場長会（子研）						
					19	夏季合宿研修（～21）						
9月	9	子研秋を楽しむ会			7	場長会（子研）			30	採用説明会	14	50周年記念式典
	17	袖ヶ浦ふれあい祭り										
10月	29	嬉泉バザー			2	場長会（赤塚）			14	採用説明会	16	理事会
11月					13	場長会（大田）			11	採用説明会		
12月					11	場長会（子研）			9	採用説明会	20	理事会
					23	冬季合宿研修（～25）						
1月	13	年頭所感会	5	袖ヶ浦餅つき	13	園長会（子研）						
			12	子研餅つき	19	園長会（浦安グライントホテル）						
					30	場長会（子研）						
2月					19	場長会（子研）						
3月	4	嬉泉祭りバザー			6	場長会（袖ヶ浦）					23	理事会
					18	職員全体研修	17	新人研修				